東海豪雨20年

東海豪雨から20年

振り返り明日へ備える

庄内川の水防災は新たなステージへ

流域治水への転換

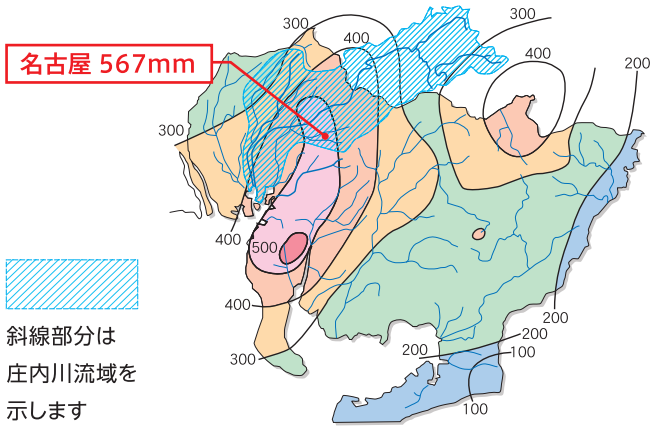
東海豪雨を振り返る

2000

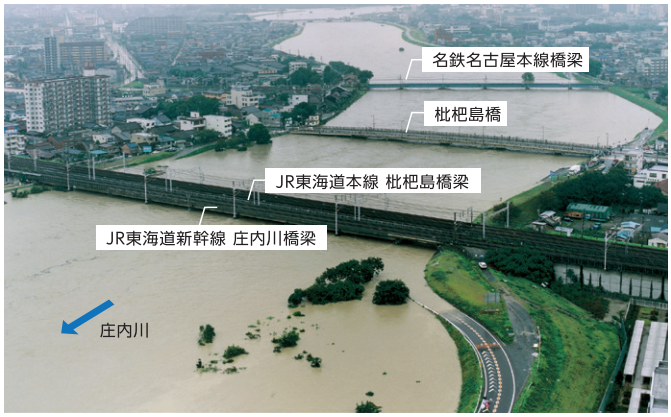
大雨の原因と庄内川の状況

平成12年9月11日から12日にかけて三重県南部から愛知県西部に線上降水帯が発生し、名古屋では11日深夜から雨が降り始め、12日明け方までの2日間で年降水量の3分の1を超える大雨をもたらしました。そのとき庄内川では、県道枇杷島橋で橋桁に当たるほど水位が迫り、国道一号一色大橋の下流右岸の堤防で越水が発生するなど、非常に危険な状態が続きました。

▶総雨量線図



▶JR東海道本線／枇杷島橋梁付近



そして経験したことのない水害となった

庄内川の越水、新川の決壊、内水氾濫により名古屋市周辺では19km²が浸水し、約29,000人の住民が避難を強いられ、18,000戸を超える住家が被災するという未曾有の都市型水害となりました。

新川の決壊状況

名古屋市の浸水状況

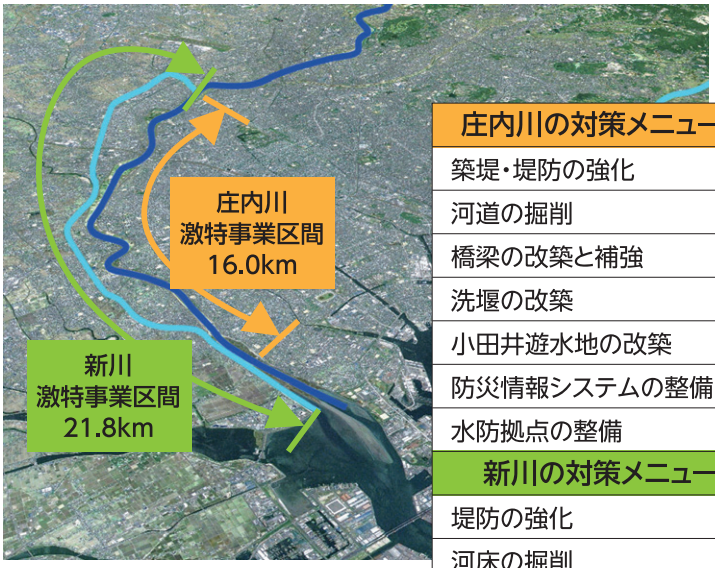
西枇杷島町（現清須市）の浸水状況

名鉄西枇杷島駅の浸水状況

東海豪雨から現在までの治水対策 ～2020

東海豪雨の教訓はどのように治水対策に反映されたのか

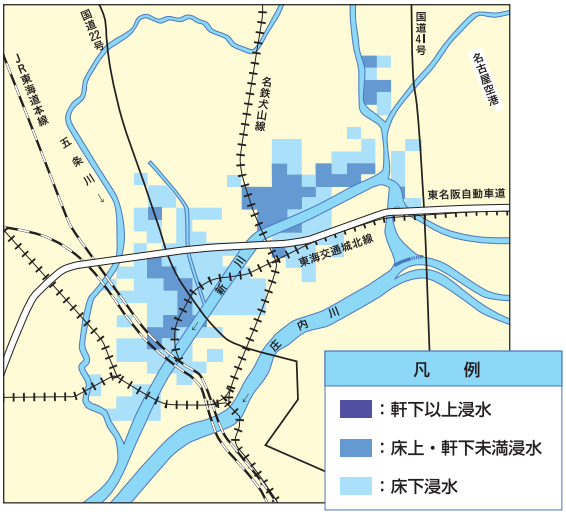
平成12年9月の東海豪雨を受け、再度災害防止対策として「河川激甚災害対策特別緊急事業（激特事業）」が採択され、中部地方整備局と愛知県で平成12年度からの5ヶ年で総合的な治水対策を実施しました。



庄内川の対策メニュー
築堤・堤防の強化
河道の掘削
橋梁の改築と補強
洗堰の改築
小田井遊水地の改築
防災情報システムの整備
水防拠点の整備
新川の対策メニュー
堤防の強化
河床の掘削
橋梁の改築と補強
内水河川ポンプの増強
遊水地の整備
防災情報システムの整備

東海豪雨時の浸水状況

激特事業後（推定）



※250mメッシュ地形モデルを用いた内水氾濫計算による推定

築堤（庄内川）

激特事業以降の水防災事業

庄内川では、平成20年に河川整計画を策定し、東海豪雨と同規模の洪水を安全に流下させることを目標に、堤防整備や河道掘削、橋梁の掛け替えなどを進めています。

- **小里川ダム建設事業**…流域への洪水による浸水被害を防ぐため実施（昭和44年度～平成15年度完成）
- **庄内川特定構造物改築事業（国道1号一色大橋）**…流下能力向上のため国道一号一色大橋の架け替を実施（平成12年度～平成26年度完成）
- **枇杷島地区特定構造物改築事業**…流下能力向上のため枇杷島地区3橋梁の架け替えや築堤等を実施（平成14年度～）
- **防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策**…防災のための重要インフラ等の機能維持、国民経済・生活を支える重要インフラの機能維持の観点から、特に緊急に実施すべきソフト・ハード対策について、3年間で集中的に実施（平成30年度～）

当時の教訓を今に繋ぐ

中部地方整備局河川部による公共機関の映像メディアを活用した啓発活動のほか、
東海豪雨20年実行委員会を組織し、当時の教訓を思い起こして頂くとともに、近年の気候変動に伴う豪雨災害やこれからの水防災について理解を深めていただくための各種広報・啓発活動を行いました。

東海豪雨から20年「自らの命は自らで守る」～命を守る行動を！ デジタルサイネージ～

中部地方整備局 河川部 河川計画課

駅の大型ビジョンやデジタルサイネージを活用し、浸水シミュレーションなどによる啓発映像を放映しました。

＜デジタルサイネージ開催期間・場所＞

●令和2年9月7日～13日
JR名古屋駅 中央コンコース／名古屋市営地下鉄 栄駅 構内

▶デジタルサイネージ

JR名古屋駅 中央コンコース

新幹線 名古屋駅前 大型ビジョン

●令和2年9月7日～20日
新幹線 名古屋駅前 大型ビジョン／名鉄 名古屋駅 中央開札前
近鉄 名古屋駅 改札内／名古屋市営地下鉄 名古屋駅 構内
金山駅 改札内

東海豪雨から20年 ～あなたの命を守るパネル展～

東海豪雨20年実行委員会

「自らの命は、自らで守る」という意識を持っていただくため、庄内川流域関係自治体のロビー等でパネル展を実施しました。また、一部の会場では、令和元年東日本台風が庄内川流域を直撃していた場合のバーチャル映像を体験していただきました。

＜開催期間・場所＞

●令和2年9月1日～10月15日
【パネル展示】
庄内川流域の市町ロビー、商業施設、図書館等 25箇所
【VR体験】
小牧市役所、庄内緑地グリーンプラザ、豊山町役場、建設技術フェア 4箇所

＜参加者の感想＞

●風化させないためにも（パネル展は）重要だと思う。
●様々な防災情報があることが分かったので今後活用したいと思う。
●あっという間に水かさが増えるので早めの避難が必要だと思った。
●リアルな浸水体験で恐怖を感じた。
●避難に対する意識が変わった。

東海豪雨20年実行委員会

東海豪雨を風化させることなく継承し、地域とともに水災害に強い都市づくりをめざすための広報活動を行うため、関係自治体など13機関による実行委員会を令和2年2月に設置。

＜実行委員会構成員＞
愛知県／名古屋市／瀬戸市／春日井市／小牧市／稲沢市／清須市／北名古屋市／あま市／豊山町／大治町／名古屋市北区／名古屋市西区／名古屋地方気象台／国土交通省庄内川河川事務所

東海豪雨から20年
～あなたの命を守るメッセージ～

東海豪雨20年実行委員会

実行委員会構成メンバーの代表等からのメッセージ動画を作成し、庄内川河川事務所ウェブサイトとYouTubeで配信しました。

ご挨拶　河川管理者から地域の皆様へ

●愛知県知事 大村秀章　●中部地方整備局長 堀田治

河川管理者を代表して、東海豪雨20年の節目に水防災の現状と今後の取り組みについて地域の皆様にご挨拶させていただきます。

第1部　東海豪雨を振り返る

●清須市長 永田純夫

資料映像で東海豪雨を振り返ると共に、被災した清洲町職員だった現清須市長に、当時の様子についてお話を伺いました。

第2部　東海豪雨以降の防災対策と近年の豪雨災害

●庄内川河川事務所長 西田将人　●名古屋地方気象台長 東田進也

東海豪雨以降に進められた水防災対策と、近年全国で頻発する豪雨災害及び庄内川流域の水防災の現状について、シミュレーション映像等を交えながら解説しています。

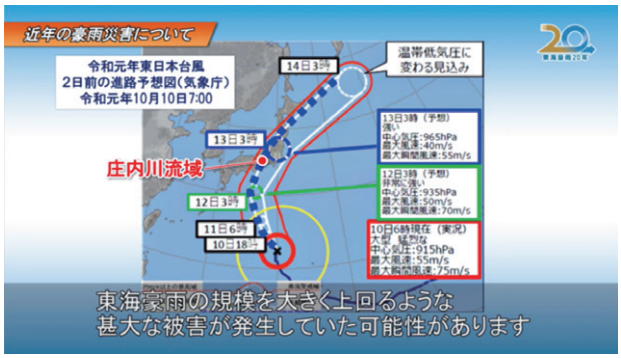
第3部　庄内川流域市町首長からのメッセージ これからの水防災に向けて

●庄内川流域10市町※ 首長　●庄内川河川事務所長 西田将人

流域市町の首長の皆さんから地域の皆様へ「命を守るメッセージ」をお送りしています。

※名古屋市、瀬戸市、春日井市、小牧市、稲沢市、清須市、北名古屋市、あま市、豊山町、大治町

映像の一部（第2部より抜粋）



令和元年東日本台風が少し西にずれていたら、庄内川流域で東海豪雨を上回る被害が発生していた可能性がありました。

庄内川の決壊シミュレーションでは、名駅付近は決壊から約4時間で一帯が浸水すると予測されています。

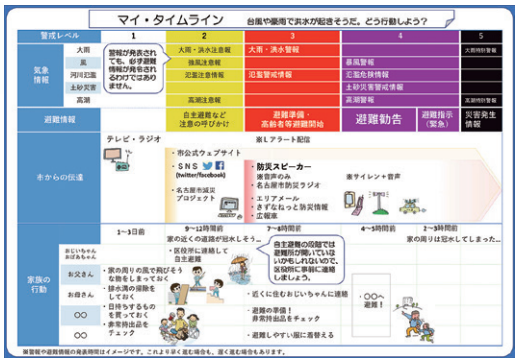
名古屋駅周辺では最大で約3mの浸水となり、浸水した水は地下街へと流れ込むことが予想されています。

▶庄内川河川事務所 YouTubeチャンネル

当時の教訓を今に繋ぐ

流域関係自治体等の機関でも東海豪雨を風化させることなく継承すると共に、
水災害に強いまちづくりをめざすために、パネル展示や啓発動画の作成などの広報活動を行いました。

令和2年度 名古屋市総合水防訓練「おうちで水防訓練」



名古屋市／防災危機管理局

市民の皆様へ風水害への備えについて啓発するため、自宅でも楽しく水防について学んでいただけるよう実施しました。

- その1／防災謎解きミッション「怪人アグアからの挑戦状!」
- その2／おとなのセルフ水防訓練「水害シミュレーションでマイ・タイムラインを作りましょう」

教育映像コンテンツ「そなえる～東海豪雨から20年～」

名古屋市北区役所（制作：名古屋市立大学芸術工学部／環境デザイン研究所）

北区の地理的特徴を踏まえたオリジナルの水害啓発映像で、小中学生が家族と一緒に楽しく視聴しながらも水害に対する準備の大切さを学ぶことができるコンテンツとなっています。

- 内容／小学生と中学生と大学生の3人きょうだいが、水に関する様々な会話を繰り広げ、ときにコメディタッチでときにシリアスな回想場面を織り込むストーリーです。会話の中では水害の歴史や深刻さ、備えの必要性を訴求しながらも、水やマリンスポーツに慣れ親しんだきょうだいが「日頃からの備え」として自分たちにできることを考えます。

令和2年度 防災講演会あいち ～東海豪雨から20年～

名古屋地方気象台・愛知県・名古屋市

東海豪雨以降に行われてきた防災情報の改善や洪水被害を防ぐ対策等を振り返るとともに、近年も相次いで発生している台風や集中豪雨による被害の防止・軽減を図ることを目的として開催しました。

- 令和2年10月6日（火） 鯱城ホール（伏見ライフプラザ5階）

東海豪雨関連メディア報道等

東海豪雨から20年の節目となることからメディアの関心も高く、庄内川河川事務所の取り組みや庄内川流域の水防災の現状について多くのメディアに取り上げられたことで、広く地域の方々に知っていただくきっかけとなりました。

【新聞社8社】朝日新聞、伊勢新聞、岐阜新聞、建通新聞、電気新聞、中日新聞、日本経済新聞、読売新聞
【テレビ局4社】NHK、CBC、東海テレビ、メ～テレ

（五十音順）

近年の豪雨災害を考える 2020～

各地で大規模災害が頻発化、もし庄内川流域で想定最大規模の雨が降ったら

近年、気候変動に伴う豪雨災害が全国各地で頻発しています。令和元年10月に東日本に甚大な被害をもたらした東日本台風の際は、上陸する2日前の時点で台風19号が庄内川流域を通過する予想となっていました。もしも直撃していたら、東海豪雨を上回る想定最大規模と同規模の大雨となっていた可能性があり、想定される被害規模は浸水面積約160万㎢、うち床上浸水が約44万戸、床下浸水が約4万戸、被害人口は約112万に及び、被害額は約21兆円に達すると試算されています。

新たなステージへ―「流域治水」への転換―

流域全体が協働して治水対策に取り組む

気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組だけでなく、流域に関わる関係者が、主体的に治水に取り組む必要があり、河川・下水道管理者等による治水に加え、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」への転換を全国的に進めています。

流域治水とは

河川管理者（国土交通省、都道府県など）が実施する河川対策だけではなく、関係省庁をはじめ、企業や住民の方々の協力を得ながら様々な流域対策を実施し、それでも足りない場合のために避難などのソフト対策を充実させて補うというように、流域の全員が総力をあげて水害から地域の財産といのちを守るというのが流域治水の考え方です。

流域治水のイメージ

全国に先駆けて、庄内川流域治水協議会を開催

令和2年7月6日、庄内川流域の関係自治体が一堂に会し、庄内川流域治水協議会が全国に先駆けて設置・開催されました。気候変動による水害の頻発化、激甚化に備え、庄内川流域のあらゆる関係者が協働し、流域治水対策に取り組んでいくことを確認し、令和2年度末までに、流域内の各市町、県、国等が行う流域治水対策を「庄内川流域治水プロジェクト」にとりまとめ、対策を推進します。

協議会の様子

庄内川流域治水協議会構成員	多治見市長 、瑞浪市長、恵那市長、土岐市長、名古屋市長、一宮市長、瀬戸市長、春日井市長、犬山市長、江南市長、小牧市長、稲沢市長、尾張旭市長、岩倉市長、清須市長、北名古屋市長、あま市長、 長久手市長、豊山町長、大口町長、扶桑町長、大治町長、岐阜県県土整備部長、岐阜県都市建築部長、岐阜県林政部長、愛知県建設局長、愛知県農林基盤局長、林野庁中部森林管理局名古屋事務所長、国土交通省多治見砂防国道事務所長、国土交通省庄内川河川事務所長 <オブザーバー> 農林水産省 東海農政局 農村振興部、国土交通省 中部地方整備局 建政部・河川部、気象庁 名古屋地方気象台、地方共同法人日本下水道事業団 事業統括部、中部電力株式会社 事業創造本部、中日本高速道路株式会社 名古屋支社 名古屋保全・サービスセンター、名古屋高速道路公社 総務部、岐阜県 農政部 （令和2年12月18日時点）

施設の能力には限界があり、

施設では防ぎきれない大洪水は

いつか発生するかもしれません。

「自らの命は、自らで守る。」

という意識を持って

行動することが大切です。

東海豪雨20年

<東海豪雨20年ロゴマーク>

20の文字を1つの線で表し、水が流れるイメージとともに、東海豪雨から現在、さらに未来へ繋がっていく時間の流れを表現しています。また、濁った色から青色へのグラデーションは、豪雨災害からの復興をイメージしています。

国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所

R2.12